



SUAC研究の「いま」

半屋外公共空間における仮設物のデザインに関する研究
—浜松市中心市街地を対象として—

■デザイン学部デザイン学科 教授／亀井暁子 ■デザイン学部デザイン学科 准教授／丹羽哲矢



研究初年度に計画・制作・設置の実験装置

近年、中心市街地の公共空間における滞在性を上げることにより、まちなかの賑わいにつなげようとするところへの関心が高まっています。浜松市においても、屋外の公共空間の活用は重要な課題として認識されており、まちなかの活用されるべき対象区域として浜松駅周辺の、本学を含めたエリアが指定されています。本研究は、公共的な半屋外空間に仮設の要素によって人と場をつなぎ、滞留空間を創出する実践的調査研究の試みです。半屋外の空間には、屋根の要素や柱等、場を規定する要素があり、それら要素との関係を考慮しながら検討する必要があります。

幸いにも、浜松市が中心市街地の



現地に搬入し最終組立て・設置の様子

活用を目的として整備した「新川モール」の指定管理者である株式会社HACK様のご協力を頂き、実験装置を設置運用することができました。実在の場所における現地調査・計画・制作設置および運用状況調査を通じて、半屋外の公共空間における仮設の要素による場の作り方に関する知見を得るとともに、浜松市中心市街地における人々の滞在を支援し、賑わいの可視化に貢献することを目指しました。

初年度には、まずは実験装置設置予定地である半屋外空間について把握するため、時間や曜日など様々な状況における場の利用の状況やその変化に対する現地調査、空間特性に関する分析を行いました。その上で、実験装置の検討・設計・制作を行いました。制作に際しては学外の木工CNCルーターを使用させていただきました。またこのような制作手法を前提としたデザインとすることにより、汎用・展開可能性をもたせました。それら実験装置を現地に設置させていただき、使われ方調査を行い、場において仮設の要素が果たしうる役割を分析・考察しました。3年の研究期間での実験装置の運用を通じて、継続的に運用・活用頂くとともに、継続運用に伴う経年劣化に関するデザイン検証を行いました。



県外駅構内に設置された実験装置の複製



継続運用に伴う補修対応作業

制作・運用した実験装置は、円形の机・ベンチ各1、組み合わせると円形になる高さ違いのベンチ・カウンター要素6、コーナーベンチの計4種9要素でした。いずれも多義的に利用可能な形状としたことから、利用向きや使われ方において多くのバリエーションが確認されました。場の利用状況に応じて組み合わせや配置を変え活用され、様々な風景をうみだしました。半屋外空間における、その場所のスケールを考慮した形状・構成を持つ要素によって、まちなかにおける賑わいと人々の滞留の風景を生み出すことができた、人と空間をつなぐデザインの可能性について考察することができました。なお実験装置は、利活用時の風景が様々な場面で発信され、ベンチの1つは複製され県外の駅コンコースに設置・利用される展開をみせました。

研究成果発表会のご案内

教員特別研究で実施した研究成果を、地域や市民の皆様にも広く発表し、地域に還元することを目的として研究成果発表会を開催します。

日時 10月30日(木) 14:40～ 場所 静岡文化芸術大学講堂

入退室自由 YouTube配信実施

※本学駐車場はご利用できません。公共交通機関や近隣の駐車場をご利用ください。